

23/3/8 名古屋市議会経済水道委員会（名古屋城関係）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

江上博之（共産・中川区）： それでは特別会計を含めて、名古屋城の問題について質問したいと思います。

本会議でもいくつかのことが指摘されておりますけれども、まず現状で、穴蔵石垣の調査が行われましたが、近世の遺構が出て来ると、こういうことはわかってるんだけどもうこれ以上は調べようがないと、調べる環境がないというようなことで、調査は進めないけれども、基本計画ということで現状許可変更申請を市は出そうとしてるといふふうに聞こえてるんですが、現状どうでしょうか。

天守閣整備担当者荒川主幹： 今年度、前年度令和3年度令和4年度とですね、大天守の地下1階、穴蔵石垣の調査を進めてまいりました。

その際にですね現天守閣の床下に入るとかそういったこともありまして、非常に作業環境の安全確保ですとかそういったことが、これ以上のところは難しいということで、できる限りの調査を行ってまいりました

その状況もですね文化庁の方に相談しながら、現状こういう考え方ですということをご説明した上で基本計画を取りまとめ、これを復元検討委員会の方に諮っていただくというような形で調整を進めております。

江上博之（共産・中川区）： 要は調査が進まないけれども、現状を報告して現状変更申請を出すというような形になってようですね。私自身はこれあんまり理解ができません。

加えて基礎構造の問題があります

石垣と天守木造天守との間の接点、これをどういうふうにするかについても穴蔵石垣の調査がきちんとならなければならないというふうに思いますが、基礎構造についても現時点ではっきりしないけれどもこのまま出していくということになるんですか。

荒川主幹： 委員おっしゃる通りでございます。

江上博之（共産・中川区）： 簡単にあんまり委員おっしゃる通りとは、聞きたくないんですけども、それでです、穴蔵石垣が現時点でどういうふうになってるか、予想といいますか、考えられることはどういうふうなんでしょうか。

調査研究センター村木副所長： 穴蔵石垣でございますけれども、現在局所的な調査ではございますが、地下の部分については遺構が残存しておいて、そこから上については昭和の時代に手が入っているというようなところでございます。

ですので、基本的にはそういった状況が穴蔵石垣の状況かと思うんですけども、その他現在の天守閣を作るときにですね、工事の際に手を入れたということが明らかなのところがございますので、今申し上げたような状況というのが残っているところで、そういう状況ということで、それ以外のところは壊れているところもあるんじゃないかというような予想をしておるところでございます。

江上博之（共産・中川区）： この部分についてもですね、調査ができないままにそういうものが申請される、あるいは文化庁の方もそういうふうになってるといのはよく理解できないということは申し上げておきたいと思います。

その上で予算として、実施設計と木材の製材と石垣保存対策等が出されておりますけども、この詳細について資料を改めてお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

天守閣整備担当新井主幹： 木材の生産につきましては、今年度と同様、来年度におきましても保管をするという内容でございます。でありますので資料といたしましては実施設計、あと石垣保存対策について提出させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員長： いいですか。続けてどうぞ。

江上博之（共産・中川区）： 木造復元中止という中で、私はバリアフリーというものは、本来、新たな名古屋市の施設を作ると、あるいは改修するということ言えば、バリアフリーは当然なされなければならないと、最上階まであるのが当たり前で、だから耐震化であればエレベーターでいけるということは再三申し上げてまいりましたが、この前の委員会です、この場では、何か上の方まで行くようなことを言ってみえた。ところが、河村市長になると、いいとこ2階までだよと。合理的配慮、何が合理的配慮が私にはよくわからないからですけども、それが昨日一昨日、昨日ですか、昨日はまた元に戻ったような、あの募集のときのね、表現のようになってるんですけども、バリアフリーの考え方ってのは結局まとまってないんじゃないか。

そういうふう聞こえるんですけども、いかがですか。

木造天守閣昇降技術開発等担当梅田主幹： 木造天守のバリアフリーにつきましては、昨日、副市長答弁がございましたように、公募の最低要求水準であります大天守1階の昇降は確保すると。その上でどうしたらより上層階へバリアフリー対応が可能かと。今後の昇降技術開発の動向等を踏まえて、しっかり検討していくという考えをまとめてまいりたいと考えてございます。

江上博之（共産・中川区）： これもですね、そういうバリアフリーについて当たり前のことができないような施設をですね、作るべきではないということをはっきり申し上げておきたいと思います。

もう一点、収支計画について私も本会議で質問をいたしました。

回答として、完成時期が明らかでないから計画は出せない、見直しはまだ行わないというような回答であったと思いますが、収支計画について、私は数字等も上げましてね観覧入場料の問題、入場者数の問題、そういうことを挙げましたが、その見直しそのものはされないということなんでしょうか。

観光に関わる名古屋城の活用担当柴田主幹： 収支計画の作り直しといったお話かと思いますが、収支計画につきましては、平成 28 年度に作成して以来、竣工期限の延長といったことがございまして、現在竣工期限が決まっていない状況におきましては、再作成といったことには至っていないところでございます。

竣工期限につきましては復元検討委員会が文化庁において開催されまして、議論が進む中で、市として新たな竣工期限といったものが定められる段階となりましたら、収支計画についても再作成してまいりたいという方針でございます。

江上博之（共産・中川区）： 私自身は、入場者数これからの費用の問題考えても、税金投入必至になると、入場料で賄うことは無理だと。例えばの例で、私 10 億円以上を税金投入が発生することもあるんじゃないかと、ということを上げましたけども、仮にですね、10 億円以上のこの税金投入、こういうことになった場合にですね、今二の丸庭園の再建やそれ以外のところでもいろいろやろうとしてるし、東南隅櫓や多聞櫓の復元計画もあります。こういうものに当然支障が出てくるのではないかと。

そういうことを私は心配しておりますが、その点当局どう考えてるんでしょうか。

上田名古屋城総合事務所長： はい、ただいま委員から、木造天守の復元以外の様々な事業についてはどうするのかというご指摘がございました。

名古屋城はですね、名古屋市にとりまして、観光資源としてのみならず、近世歴史文化の拠点、あるいは清州越しに端をする本市の都市形成の起点でもございます。

中でも木造復元は、城の象徴的な存在として大変重要な事業であるとともに、多数の実測図や写真などの豊富な史資料を有する全国でも類を見ない貴重な復元事例として、その意義は誠に大きいと考えております。

一方で本市では令和 2 年度に本丸整備復元、本丸整備基本構想を策定をいたしてございまして、その中におきまして、木造復元事業の他、将来的には本丸表一之門や、多聞櫓、あるいは東北隅櫓などの復元も想定をしております。また併せてですね先ほどご指摘ございました、二の丸庭園の復元につきましても、現在着々と事業を進めております。

そうしたことから木造復元に引き続きまして、可能な限りこうした名古屋城全体の整備についても取り組みを進めてまいりたいというふうに考えております。

江上博之（共産・中川区）： 資料要求しましたからね、多くのことは語りませんが、はっきりしてることは、この木造復元やって税金投入になったら二の丸庭園だけじゃなくて、今日もありました第2期の金シャチ横丁の問題、博物館とか、芝居小屋風の多目的施設ですか、こういう建設費だって大きな支障があると思います。

ましてや現天守というのは、これはもう外観については素晴らしいものだということからいってもですね、木造復元について、やはり中止をしていくべきだということは、財政面でも言えるんじゃないかということ、今日は指摘しておきます。

以上です。

委員長： 関連で浅井委員。

浅井正仁（自民・中川区）： すいません。そしたら天守閣特別会計で。

石垣の保全保存対策なんですけども、当局が今年度末で取りまとめると言ってる全体計画の課題の一つに石垣の保全方針があったと思います。

その方針に基づく対策だと思いますが、そういう認識でいいですね。

天守閣整備担当新井主幹： 委員おっしゃる通り、保存法に基づく保存対策になるというふうに考えております。

浅井正仁（自民・中川区）： そしたらちょっと資料要求で。石垣の範囲、内容から内訳等がわかるものを資料で要求したいと思います。

荒井主幹： 資料提出致します。

委員長： 浅井委員、どうぞ続けて。

浅井正仁（自民・中川区）： 昨日我が党の渡辺委員の本会議質問で、穴蔵の石垣が安全性が非常に危ういという答弁があったと思うんですけども、具体的にその穴蔵はどんな状態だったのか内容等を資料で提出していただきたいと思いますがいかがでしょうか。

天守閣整備担当者荒井主幹： 資料を提出させていただきます。

委員長： 以上でいいですか。聞きたいですか。他にないようであります。